

そよかぜ通信



教育出版

生活科・総合通信

そよかぜ

通信

2018年
春号

目次

●巻頭言

さらに深まる！
新学習指導要領……………2

生活科・総合的な学習の時間

文部科学省 初等中等教育局
教育課程課 教科調査官

渋谷一典

●授業実践

学ぶ楽しさ・活動する楽しさ・
人と関わる楽しさを実感させる
保幼小連携……………6

高知県高知市立高須小学校教諭
山本愛実

第16回

地球となかよしメッセージ……………11

作品募集要項
前回の入賞作品紹介

●こだわり館嘆符！⑩

兵庫県立歴史博物館……………12

世界遺産姫路城とともに
兵庫県立歴史博物館館長
藪田 貫



表紙イラスト：牛山 歩

さらに深まる！ 生活科・総合的な学習の時間 新学習指導要領



文部科学省 初等中等教育局
教育課程課 教科調査官

渋谷一典

平成29年3月に改訂された新学習指導要領が、1年間の周知・徹底期間を経て、いよいよこの4月から動き出します。平成32年度の全面実施までの移行期間の教育課程については、生活科が「新小学校学習指導要領の規定によることができる」とされ、各学校の判断で先行して実施することが可能となっています。

一方、総合的な学習の時間は、「新小学校学習指導要領の規定による（プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を除く）」とされました。各学校では、新学習指導要領に即した指導計画等を作成するなどして、30年度からの確実な実施に向けた準備を進めてきたことと思います。

そこで、本稿では、生活科・総合的な学習の時間の一層の充実に向け、今回改訂の趣旨を踏まえた学習指導のポイントを解説します。



生活科

～言葉と体験を重視し、気づきの質を高める～

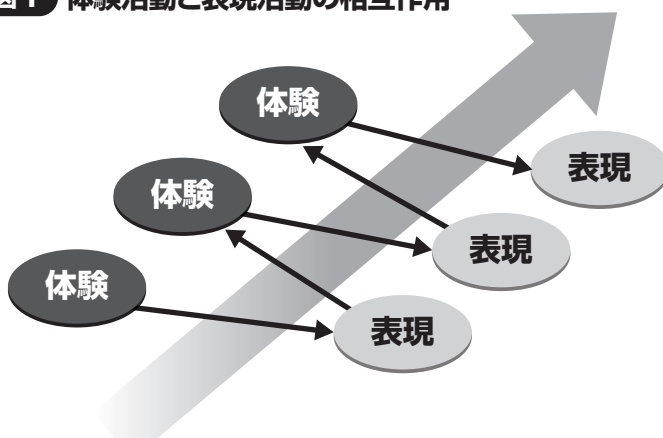
生活科の学習活動では、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、体験で得た気づきを表現することで、その質を高めながら、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されていきます。ですから、直接対象と関わる体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識した学習過程を工夫することが何よりも大切です。この過程が、連続的・発展的に繰り返されることで、育成を目指す資質・能力として期待される児童の姿が繰り返し表れ、それらが積み重なって確かなものとなっていくのです。(図1)

今回の改訂では、具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける、比べる、たとえる」に加えて、「試す、見通す、工夫する」などの多様な学習活動を行うことが求められています。これは、学習活動が体験だけで終わってしまい、活

動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていないという指摘を踏まえたものと考えられます。気づきの質の高まりは、教師が行う単元構成や学習環境の設定、学習指導などの影響を受けますから、今まで以上に意図的・計画的・組織的な授業づくりが求められていると考えてください。

このように、生活科では、体験活動と表現活動の相互作用の中で、多様な学習活動が展開され、活動や体験を通して得られた気づきが質的に高まるような学習過程を意識し、「深い学び」の実現を図ることが期待されています。

図1 体験活動と表現活動の相互作用



体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返される学習過程において、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようになる。

総合的な学習の時間

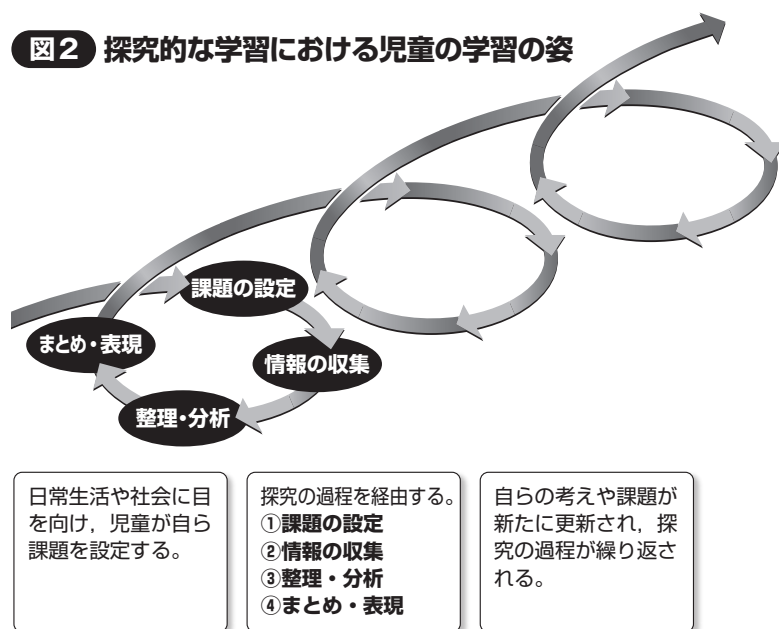
～探究の過程を一層重視する～

総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、児童の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすること、探究的な学習や主体的、協働的な学習とすることを大切にしています。特に、探究的な学習を実現するため、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視しています。(図2)

ところで、総合的な学習の時間は、各学校において目標や内容を定めるという点で、他教科等にはない特質がありますが、今回の改訂では、学校において定める目標については、教育目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を示すことが規定されました。これは、総合的な学習の時間の目標が、学校の教育目標と直接的につながることを意味しています。この時間における学習活動が、学校の教育目標を具現化するものであるという関係が明示されたと考えることができます。

一方、総合的な学習の時間で各学校が定める内容は、「目標を実現するにふさわしい探究課題(以下、「探究課題」)」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力(以下、「具体的な資質・能力」)」の2つの要素で示すことが規定されました。どちらも新しく登場した要素なので説明すると、「探究課題」とは、探究的

図2 探究的な学習における児童の学習の姿



に関わりを深める学習対象(人・もの・こと)です。例えば「身近な自然環境とそこで起きている環境問題」のように、各学校が内容として定めるもので、児童が自ら設定する課題と区別しています。探究活動を通して児童にどのような資質・能力を育成したいと考えるかを、学習対象の水準で示すものと考えてください。また、「具体的な資質・能力」とは、各学校において定める目標で示した資質・能力を、各探究課題に即して具体的に示したもので、資質・能力の三つの柱に即して設定するものです。(図3)

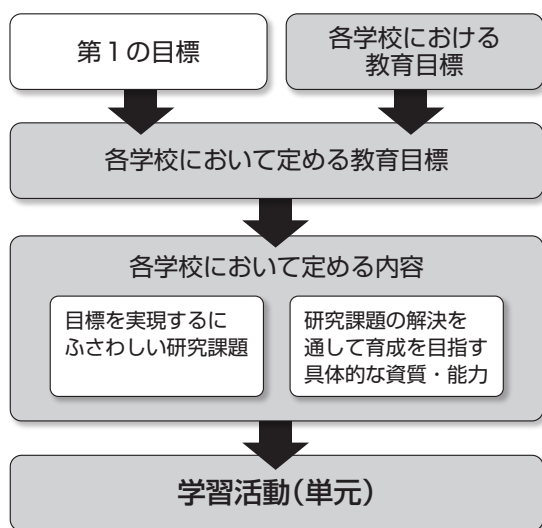
「具体的な資質・能力」のうち、「知識及び技能」については、次のように考えるとよいでしょう。

探究的な学習の過程では、「探究課題」についての個別の知識や技能が獲得されます。探究的な学習の過程が繰り返され連続していく中で、個別の知識が何度も活用され発揮され、その結果、構造化されて生きて働く概念的な知識へと

高まっていく、これを、「具体的な資質・能力」の「知識及び技能」として設定するのです。

実際の学習活動で考えてみましょう。例えば、「身近な〇〇川の自然と、そこに起きている環境問題」を「探究課題」として設定した場合、子供たちは川の調査活動を通して、見付けた生物の種類や、それぞれの生物の生息場所に関する特徴など、個別の知識を情報としてどんどん獲得していきます。ここで得られた個別の知識は、探究の過程で、自分自身で取捨・選択し、整理し、既にもっている知識や体験と結び付けられながら、やがては「生物は、色、形、大きさなどに違いがあり、生育の環境が異なっていること（多様性）」や、「自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないこと（有限性）」などのように、実社会・実生活における様々な課題の解決に活用可能な生きて働く知識、すなわち概念として形成されることが期待できます。

図3 目標と内容と学習活動の関係



話を学習指導のポイントに戻しましょう。総合的な学習の時間における学習指導を通して、資質・能力を確かに育成していくためには、探究的な学習の過程をこれまで以上に充実させていくことが大切です

充実した探究的な学習の過程の中では、総合的な学習の時間や他教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮する学習場面が何度も繰り返され、身に付けた「知識及び技能」は関連付けられて概念化し、「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結び付き、多様な文脈で使えるものとなります。また、このように充実した学習の過程において、児童は手応えをつかみ、前向きで好ましい感覚を得ることも期待できるでしょう。そのことが、さらなる学習過程の推進に向かう安定的で持続的な「学びに向かう力、人間性等」の涵養へと結び付いていくのです。

生活科も総合的な学習の時間も、身近な生活、実社会や実生活と自分との関わりを通して学ぶこと、自立や自己の生き方につなげていくことを一貫して重視してきました。今回の改訂においても、その理念に変わりがないどころか、一層、揺るぎのないものになっていると思います。このことは、同時に、生活科・総合的な学習の時間が目指す学びが、変化の激しいこれからの社会に必要な資質・能力を体現しているものである、と捉えることができます。

先生方におかれましては、改訂の趣旨を踏まえた学習指導を一層充実させるとともに、今後も、それぞれの地域がもつ豊かな特色を存分に生かし、子供一人一人が輝く多様な実践に取り組んでいただきたいと思います。

学ぶ楽しさ・活動する楽しさ・人と関わる楽しさ 保幼小連携

高知県高知市立高須小学校教諭
山本 愛実

1 入学するまでの 幼児と児童(学校)の交流に関すること

高須保育園の年長さんが、小学校の校庭で春見つけや秋見つけを行っている。幼児たちは、季節によって変化する小学校の校庭の様子を感じとって遊んだり、休み時間には幼児と児童と一緒になかよく遊んだりする姿も見られる。11月になると小学校の大きな行事の一つである音楽会がある。その直前に、近隣の園の年長さんを小学校に招待し、1年生によるミニコンサートを開催する。幼児たちは1年生が演奏する曲の迫力に驚き、児童たちはこれまで一生懸命練習してきた成果を、去年までお世話になった園の先生や年長さんに見せることで自分自身に自信をつけることができる。



ミニコンサート

2 保護者への働きかけに関すること

自分の子どもを初めて小学校に入学させる保護者は、少なからず不安な気持ちを抱えている。「小学校はどんな場所なのだろうか。」「何を準備すればいいのだろうか。」などさまざまな疑問があるだろう。そこで高須小学校では、次のような取り組みを行っている。一つめは、1年学年主任が、就学時健診の

高須小 入学じゅんび号

なかよし

2018. 3月

もうすぐ入学式ですね。保護者のみなさまにおかれましては、いろいろとご準備に忙しくされていることと思います。質問が多い持ち物等について、おたよりを作りました。参考にして頂けたら幸いです。

もちもの

学校に持ってくるものは…
☆授業に必要なものだけ！
☆授業に集中できるもの！
↓これが基本です！

①ふでばこ（新学期のうちは、チャックのペンケースよりも中身が一目で分かる、箱型のふでばこがおすすめです）

②えんぴつ二本
（①の芯のずりわりがよいもの、△丸いえんぴつよりよく転がります。）

③けしごむ1こ
○弱しやすしいもの
×においつき
×おちちけしごむ
（お家や教室に落ちてしまったら大変です）

④下じき
⑤色えんぴつ（12色程度のもの）
⑥クレパス（16色程度のもの）

⑦上ばき…特に指定はありません。
画で使っていたものでも構いません。
入学式当日も履穿しています。

※名前をわらがなで書いてください。
※上は速乾性にしてください。

⑧履物…登下校で毎日着用します。
入学式当日、履穿してください。

⑨体操服…4月21日（土）の参観日に販売します。
それまでは、園の体操服を持たせてください。

廊下で使用されていた物で、学校でも使える物もあります。
捨てて捨てないで、書いておいてください。
その他、必要な物はその都度お知らせします。
※教科書、ノート類は学校で用意しています。

入学準備号：入学前に準備するものなどが書かれているお便りを園に配布している。

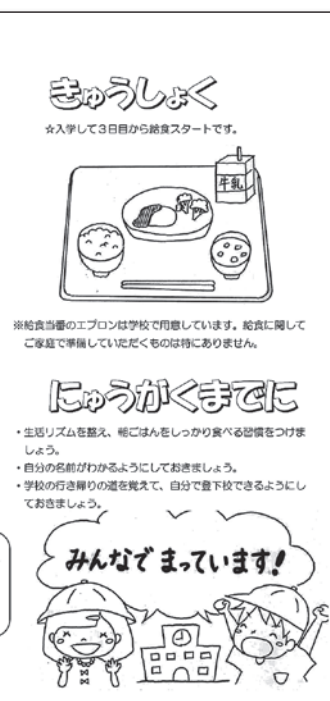
際に学校生活の様子や入学までの準備について保護者に説明すること。2つめは、1年生の学年便りを近隣の園に月に1回配布し、学年便りを通して小学校の行事や様子を伝えること。3つめは、入学準備号としてお便りを近隣の園に配布すること。これらのことを通して、入学に向けての心構えや具体的な準備等を保護者に知らせることで不安の軽減を図っている。また、保護者の不安を取り除くことで子どもも安心して入学に向けて心の準備ができる。

3 保幼小の教職員の連携に関すること

入学して一ヶ月を過ぎた頃に、園の先生たちが小学校を訪問して授業を参観しにくる。園の先生たちは、自分の園を卒園していった子どもたちが小学校

6 教育出版 そよかぜ通信 18年春号

を実感させる



という新しい場所でどのようにがんばっているかを楽しみに訪問する。私のクラスでは、図工の授業としてねん土を使って自分が作りたいパンを作る活動を行った。児童たちは久しぶりに会う園の先生たちの姿を見ると自然と笑顔になり、「先生こっちに来て。」と先生を自分の席の近くに呼んで自分が作ったパンを紹介していた。参観後は、1年生の担任と園の先生たち、管理職を交えて話し合いを行い、児童の様子や園や学校での活動内容を交流することができた。児童の様子を交流することで、お互いに

知らなかった一面を知ることができたり、今後の対応を考えたりすることができた。活動内容を知ること、園で経験、体験したことを小学校ではどの場



園の先生が学校訪問：ねん土を使ってパンを作っているところ。絵本『からすのばんやさん』を聞いたあと、自分が作りたいパンを作り、友達に紹介している。



園への実習：各クラスに先生が1、2名入り、一緒におもちゃを片付けたり、踊ったりしている。

面で生かすことができるのか具体的に考えることができた。

夏季休業中には、小学校の新任の教員を中心に近隣の園を訪問し、半日または一日実習を行っている。実習を通して、園の実態を知るとともに、園内での活動内容を理解し、園の先生との交流を図ることで互いの情報を共有することを目的としている。園での子どもの様子を見ると、先生の話を聞く時には静かに聞いたり、お昼ご飯の時には当番さんがエプロンを着て準備したり、お昼寝の時には自分で布団を敷いたりする姿を見ることができた。幼児たちは自分では自分でしっかりしていることがわかり、驚かされた。小学校に入学すると、1番下の学年になることから小学校のことを1から教えないといけないと思っていたが、そうではなかった。実際に園で活動する幼児の姿を見て、小学校では園での経験を基にその力をさらに育てていくという考え方のほうが合っていると感じた。園での経験・体験したことを小学校においても経験・体験させると同時に、小学校では児童が「〇〇したい。」「〇〇したいんじゃないかな。」と思うことを児童が主体的に計画して実行するようにしていくことで、「もっと知りたい」「もっと学びたい」という学習意欲

につなげていく。

入学後、児童が早く学校生活に慣れるようにするための手立ての一つとして、2月頃に小学校主催の「学校給食にチャレンジ」を実施している。栄養士と児童支援担当が園を訪問し、実際の食器やおもちの給食を使つての配膳を体験している。また、エプロンのたたみ方も一緒に練習している。さらに、今年度は小学校のエプロンと同じエプロンを使って給食準備をしている園もある。これらは、入学してからの給食準備を児童がスムーズに行えるようにするためである。

4 スタートカリキュラムに関すること

入学してくる子どもたちは、さまざまな気持ちを抱えている。「今日から1年生になるんだ。」と気持ちが高揚する子もいれば、「友達はできるかな。」「小学校って何をするとところなんだろう。」と不安に感じる子もいる。園では遊びを中心とした活動が多かったが、小学校では自分の席が用意され、椅子に座つての勉強が中心となってくる。一日の流れも時間割であらかじめ決められ、児童たちはその時間割に合わせて行動しなくてはならない。このような園とのギャップを児童たちが不安に感じることなく安心して学校生活を送れるようにするために、以下のスタートカリキュラムを設定している。

児童が登校してきた時に教室に誰もいないということがないように、児童よりも先に教室に先生がいる状況を作っておくことで児童に安心感をもたせるようにしている。児童の中には、お母さんやお父さんと離れるのが寂しくて泣きながら登校したり、玄関で足がとまってしまう教室になかなか入れなかったりする児童もいる。その際には、小1サポ

ーターの先生と協力しながら児童の話を聞いてあげたり、学校に来たことを賞賛してあげたりすることで不安を取り除くようにしている。

4月から5月にかけて共通して行っているのは、朝の会の時に読み聞かせをしたり、手遊びや簡単なゲーム（例「あとだしジャンケン」）をしたりして、児童の緊張をほぐすことから始めている。週ごとの具体的な活動は以下のとおりである。

第1週 学校での過ごし方を中心に学習する。

登校するとランドセルから自分の荷物を取り出して、自分のロッカーに片付ける。最初の数日は、全員で一緒に一つずつ確認しながら行い、慣れ始めたら自分で荷物の出し入れをする。また、挨拶の仕方やトイレの使い方、手紙の受け取り方と渡し方、給食については、エプロンのたたみ方や配膳の仕方などを見たり、体験したりしながら行う。その際には、園で学んできたことを確認し、園と小学校の同じところと違うところを児童が発見しながら小学校での方法を覚えていくことで全員の意識共通を図った。クラスには、初対面の人もいるので、隣の席の友達とハイタッチしたり、宿題として友達の名前を覚えてそれをうちの人に伝えたりするようにした。



学校たんけん：2年生と一緒に校内をたんけんしている。写真は職員室の説明を聞いているところ。

学ぶ楽しさ・活動する楽しさ・人と関わる楽しさを実感させる 保幼小連携

第2週

学校生活に次第に慣れるために朝の会の仕方や掃除の仕方を覚え、自分たちで行った。掃除の仕方については、6年生が1年生の教室にきて掃除をすることで、1年生は6年生の姿を見て学んだり、一緒に掃除することで6年生に掃除の仕方を教えてもらったりして上級生と関わりをもたせた。授業では、生活科を中核とした総合的な指導としてカードに自分の名前と自分の好きなものの絵をかくて、そのカードをクラスの友達と交換する授業を行った。お互いに「〇〇です。よろしくね。」と自己紹介をしたあとに手作りの名刺を交換しながら、自分の名刺カードの数が減っていくと同時に友達の名刺カードが増える喜びを感じつつ、握手をして次の人を探しに行った。最初は恥ずかしがりながら活動していたが、最後には「いろいろな人と名刺が交換できて嬉しかったです。」と発表し、児童は大事に名刺を家に持って帰った。

2週め後半からは、少しずつひらがなや数の数え方を勉強するようにした。数の数え方については、学校にあるものの数を数えてみたり、ゲーム(例「もうじゅうがり」)をしたりしながら楽しんで覚えていくようにした。児童は、遊びを通して自然と勉強しているのである。

第3週

みんなで体を動かしながら歌を歌ったり(例「かもつ列車」)、かけっこをしたりして遊んだ。ここでは、クラスのみんなや違うクラスの子たちと関わることで、集団として活動する楽しさを味わった。また、校庭に春見つけをしに行ったり、2年生と一緒に学校探検に行ったりして、校内にはどんなものや場所があるのかを見つけに行った。学校探検においては、1年生は広い校舎に驚きながらも、各教室がどんな場所なのかを教室の隅々まで観察し、2年生の説明を一生懸命聞くようにしていた。自分たちが利用する教室の場所を覚えたり、各教室にいる先生の名前を覚えたりすることで、小学校という場所に対する興味・関心を高め



5年生と遠足：5年生が車道側に立って、1年生の歩幅に合わせて歩いてくれている。

ていった。そして、オリジナル校内マップを作ることで、児童が教室移動する際に、そのマップを手がかりとして活用する姿が見られた。

第4週

5年生とピアサポート(異学年交流)も兼ねての遠足に行き、5年生と1年生がペアになって公園に行ってゲームをした。5年生は1年生の歩幅に合わせて歩いたり、1年生が歩き疲れた様子を見ると「大丈夫？ あと少しだよ。」と優しく声をかけてあげたりする姿が見られた。そんな5年生の姿を見た1年生は「5年生となかよしになったよ。」と嬉しそうに報告しにきてくれたり、校内で5年生に会った時には自分から声をかけたりする姿も見られた。授業では、アサガオの種を自分の鉢に植えて、自分のものとして育てるようにすることで、休み時間になると水をあげてお世話をしたり、双葉が出たら「葉っぱが出てるよ。もっと大きくなってほしいな。」とその喜びを友達や先生に報告したりする姿が見られた。

学ぶ楽しさ・活動する楽しさ・人と関わる楽しさを実感させる 保幼小連携



1年生を迎える会

スタートカリキュラムを実施して、児童たちは次第に笑顔で登校できるようになった。手遊びやゲーム、名刺交換などを通して、子どもと子ども、子どもと担任がつながることができた。そのつながりは、ペア学習の基礎となり、どの子とペアになっても恥ずかしがらずに関わろうとすることができている。上級生と関わることで、学校生活でのきまりをお兄ちゃんやお姉ちゃんのお手本を見ながら学ぶことができ、まねしようとする姿が見られた。また、一緒に活動したことで校庭や廊下で会った時に、上級生は1年生のことを気にかけてくれるようになり、1年生は知っているお兄ちゃんやお姉ちゃんがいることに喜びを感じることができた。このような上級生の姿を見た1年生は、「ほくも上級生みたいになりたい。」「上級生がしていることを私もしたい。」と思えるようになった。また、2週めには学校行事として「1年生を迎える会」があり、全学年が1年生のために歌や合奏、プレゼントを準備してくれた。この会を通して、1年生は「高須小学校の1年生になったんだ。」という思いを高めることができた。同じ学年の友達や上級生と関わることで、自分と他者とのつながりができたことの嬉しさや、みんなで何かする楽しさを感じることができた。

スタートカリキュラムでは、児童が園での経験や

学びを生かして、「小学校ではこんなこともできるんだ。」と自分の可能性の幅をさらに広げながら活動することができるようにしていくことが大切である。活動の際には、児童の思いや願いを発信源として取り組むようにしたい。その際に教師は子どもと子どものつなぎ役として、児童に「どうする?」「どうしたい?」「それから?」などと投げかけることで、児童の頭の中のイメージを具体化させることが必要である。児童が発見した学びを自分だけでなく他者と共有することで活動の幅が広がることを実感させる。スタートカリキュラムを通して、小学校で「学ぶ楽しさ」「活動する楽しさ」「人と関わる楽しさ」を児童に感じてもらい、学校が児童にとって安心して過ごせる場所になってほしい。



ペア活動(算数): おはじきを使った遊びとして、手の中にあるおはじきの数を当てるゲームをしている。

2018年度

第16回

地球となかよし

メッセージ
作品募集

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2018年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね▶ <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

第15回 入選作品

ミニ展示室

地きゅうをまもっている木

(小学校3年)

この絵は、人間が作り出したわるい空気を、木がきれいな空気にかえているところをそうそうしてかきました。

大きな木の中に、うちゅうがあり、そして、わたしたちがすむ地きゅうがあります。わるい空気は、水を多くふくませてかきました。



名前を知って (小学校4年)



正法寺川たんけんたい。住んでいる町の川をたんけんする、学校のじゅ業がありました。正法寺川ってどこにあるんだろう。行ってみると、わたしの家の前にある川でした。いつも、よどんでいて、近づいたことがない川。名前がちゃんとある川だったんだ。

そこで、一番最初に見つけたのは、カニでした。こんなにこっている川でも、生き物がいると思うと、とてもうれしかったです。名前は、ベンケイガニ。他にもアオサギ、クサガメ、ボラ。次々と見つけました。ごめんね、みんな、ちゃんと名前があるんだね。生きているんだね。名前を知ると、そんな感じが、いとしくなってきました。

これからは、名前をわすれないように、そのそんざいを消さないように、しっかり見つめていこうと思います。



ぼんおどり (小学校1年)

ぼくは、みやぎけんからひっこして、はじめて、いますんでいるところのおまつりにいったよ。

おどりがちがっていてびっくりしたけど、やぐらのおばさんがおしえてくれたよ。

いろんなぼんおどりがあるんだね。ぼくは、どっちもすきになった。

世界遺産姫路城とともに

兵庫県立歴史博物館館長 藪田 貫

姫路城へようこそ

JR姫路駅の改札を出て右に進むと、視線の先に白亜の大天守が見えてきます。その間、数分。誰しも、その突然の出会いに驚き、なかには早速、パチリと一枚写真を撮る人も。姫路城のなよりの魅力は、一目見たその瞬間から、大天守めざして大手前通りを一路辿れば、自然とそこに行き着くというわかりやすさです【写真1】。銀杏並木を歩くこと20分から30分、内堀に架かる橋を渡って左に折れれば、目の前には、小天守を従えた大天守がどっかと鎮座しています。ここで再び、ウォーと歓声が上がること間違いなし。



天下分け目の戦いと言われた関ヶ原合戦(1600年)の後、姫路に入った池田輝政によって、姫路城は建てられました。巨大な城郭普請を短期間で進めたため、その負担に耐えかねた人々の苦痛は、天狗の忠告となつて下され、その崇りを避けるべく天守最上階には、長壁神社が勧請されたと言われています。現存する社の神威のお蔭か、それ以来、姫路城天守は、第2次世界大戦末期の姫路大空襲の惨禍からも逃れ、現在まで立ち続けています

②



【写真2、館蔵：高橋秀吉コレクション】。まさに奇跡といっている貴重な文化遺産です。

姫路城天守の後姿

現在、姫路城の建造物は天守を中心として国宝・重要文化財とされ、本丸・二之丸を含む中堀以内の広大

な地所は、特別史跡として指定されています。その中には、姫路市立動物園、姫路市立美術館（もと日本陸軍の第10師団の衛戍倉庫で、戦後の一時期、姫路市役所）、武家屋敷を復元した好古園、図書館を併設した姫路市立城郭研究センター、そしてわたしたちの歴史博物館があります。本丸に立つ大天守を囲むように立地しているのですが、共通しているのは、どこからの眺めも秀逸だということ。赤煉瓦の美術館（東側）からの眺めは、赤と白のコントラストの妙とともに、大天守の意外なほどに細身な姿に出会い、驚かされます【写真3】。



そしてわが歴史博物館からは、「見返り美人」よろしく大天守の後姿が、木立の上に浮かぶようにして眺められるのです【写真4】。

博物館に込められた建築家の想い

歴史博物館は、1983年(昭和53)4月に開館しました。設計は丹下健三(1913~2005)、1964年に開催された東京オリンピックの代々木競技場で知られた世界的な建築家です。彼は、歴史博物館を設計するにあたって、まず、白鷺城の異名をもつ姫路城を念頭に、博物館本体を白鷺が羽を広げて飛ぶ形に設計。ついで白鷺にふさわしく、白を基調に仕上げ、隣に立つ赤煉瓦の美術館とのコントラストを際立たせました。その上で彼はもうひとつ、世界遺産姫路城を取り込む仕掛けを

博物館に仕込ませたのです。

それは、白鷺の首に当たる部分に造られたレストラン(現在、「はりまっ子」として営業)。キュービック型のレストラン内からは、ガラス越しに大天守の後姿が眺められる一方、ひとたび外に出ると、レストランのガラスは鏡となって大天守の後姿を映し出しているのです【写真5】。内からみれば〈窓〉として外を透視でき、外から見れば〈ガラス〉として天守を写す、という当時最新の半透明ガラスを駆使した丹下らしい工夫と言えるでしょう。

そこまでして姫路城を連想させる意図はなにか、と

いえば、それは歴史博物館が、世界遺産姫路城の唯一のサイトミュージアム(史跡など特別な場所に立地する博物館)だからです。



手前は著者

館内にも姫路城天守がある！

そればかりではありません。館内には、姫路城天守がさらに4つあるのです。まずは、広いロビーの奥に置かれた縮尺15分の1の姫路城天守の模型。模型といっても石垣の曲線、千鳥破風や唐破風の組み合わせ、複雑な屋根組も本物そっくり。それでいて周囲をグルッと回って眺められ、仰ぎ見るばかりの本物では果たせない細部の観察が可能です。縮尺模型の面目躍如ということでしょう。館内に入ってきた小学生たちがまず案内されるのが、この姫路城です【写真6】。

つぎに城郭展示コーナーに進むと、同じ縮尺ながら、

6

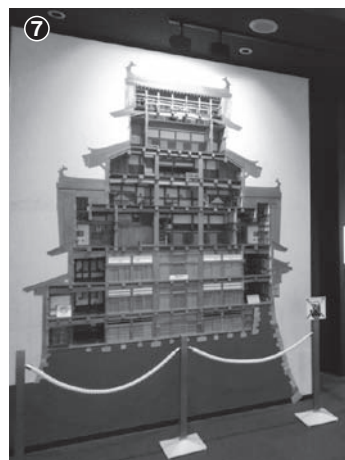


二分割された姫路城が待っています。リングを真ん中でタテに二つに割ったというか、あるいは姫路城天守のレントゲン写真というか、石垣と白壁に覆われた天守ではなく、木組み丸出しの大天守の内部が、そこには用意されているのです。5層に見える天守が、実は7階であることが手に取るようにわかるばかりか、大天守が、東西二本の大柱のみによって支えられている姿は感動的ですからあります【写真7】。

昭和30年代後半の大修理では、二本の大柱が取り替えられるという大工事が行われたのですが、その時に取り替えられた東大柱の根元部分が原物展示されています。武骨な幹の太さと200年を超える年輪の存在感に誰しも圧倒されます。大天守が、法隆寺や金閣寺と同様、木造であることが再認識される瞬間です。

天守比べ

実物の15分の1の縮尺模型を二つ見たあとは、2階の城郭展示室に上がります(ここからは有料)。





そこには丸岡城・彦根城・松江城・松本城・犬山城など、現存する全国12城の天守が、50分の1の縮尺模型として並んでいます。

戦国時代以降、日本列島の各地に造られた城は、天下統一の時代を経て、小高い山の上の土塁の城から、平地の急峻な石垣を備えた城郭へと大きく進化していったことが知られていますが、400年の歳月は、それらを多数の城を^{ふるい}篩に掛け、わずか12城を残すに至ったのです。その中でも姫路城が、ひときわ大きいことに気づきます【写真8】。

これら12の天守模型を見ていると、築城の歴史とともに、保存の歴史をも感じ取ることができますが、同時に、一つ一つの城と天守を、実際に現地に行ってみたく旅情の湧くのを覚える人は少なくないでしょう。お城には、想像力を掻き立てる力があるということでしょうが、とくに美しい城郭には、芸術家や文学者・技術者の魂を揺さぶるものがあるのでしょうか。

ガラス製の天守

こうした城のもたらす感化力というべき作品が、最後の4つ目の姫路城です。それは1階ロビーの奥に、ガラスケースに入られて展示されていますが、この縮小模型（ほぼ15分の1）の天守は、なんとすべてガラスで作られて



いるのです。これを作ったのは日米両国でガラス工芸作家として活躍された大野^{おの}貢氏（1926～99）。天皇陛下が皇太子時代に訪米された折、現地で氏の作品に注目され、陛下の帰国後の1992年（平成4）11月に献呈された逸品です【写真9】。翌93年6月、本陛下から下賜され、今に至っています。知る人ぞ知る傑作で、よくぞ薄いガラスで—しかもガラスには全体にヒビが入っている—、これだけ大きく複雑な物を作ったと感心するほかありません。

祭りだ、祭りだ

ところで兵庫県は、旧国名でいえば摂津・丹波（どちらも一部）・播磨・但馬・淡路の五国からなり、瀬戸内海とともに日本海にも臨む広大な県域をもっています。歴史の古さでいえばもちろん淡路ですが、播磨に置かれたのはやはり、世界遺産にも認められた姫路城天守の存在が決定的な要因だったと推測されます。

と同時にもう一つ、博物館に大きな特色が加わりました。播磨路は「灘のけんか祭り」を代表とする秋祭りの集積地だ、という事情があるからです。豪壮で華麗なことはもちろん、重さ2トンもある屋台を人力だけで引き回すばかりか、時に御輿をぶつけ合うことで^{きちずい}吉瑞を占うという勇壮な祭りが、姫路市を中心に、10月を通して繰り広げられるのです。この祭り文化は、江戸時代後期以降、意匠を凝らした屋台を造形させるにいたったのですが、晴雨に関わりなく宵宮と本宮の二日間、主役を演じる屋台は、損耗も激しく、適宜、新調を余儀なくされます。幸いなことに、そうして払い下げられた屋台が一基、ドカンと2階の展示室に据えられているのです。

祭り屋台にあがれませんか？

この屋台、現役を引退後、据えられて30年余経ちますが、毎年、10月の祭日になると、町内会の代表が来られ、飾られているシデ棒を交換されます【写真10→裏表紙】。2階の祭り展示コーナーの中心を占めるこの屋台に、あらたな役割が期待されています。

きっかけは、2016年8月に当館で開催した教員セミナーに参加した小学校教諭の一言でした。「総合学

習として祭りを扱っているが、祭りに参加する児童は限られており、引越してきた新住民の子弟や女性は、外から眺めるしかない。そこで、この屋台に、祭りに参加できない子どもや女の子を上がらせてやってくれないか」という思いきった要望でした。

言われてみて納得。たしかに祭りは、外から見ても楽しいが、やはり中に入ってなんぼの世界。見上げるたびに、一度は上がりたと思うのは人情。とはいえ展示品には展示品としての約束事がある。それは、保存という義務。上がらせることで屋台を傷つけたり、消耗させたりすることへの危惧が、学芸員としての一番の心配。30年余を経過し、成熟してきたように見える博物館が、小学校などと連携することで変身することを求められているのでしょう。

生活文化と歴史文化

祭り屋台に上がる一というのは、子どもたちにとっての〈経験〉となるものですが、生活文化は、すべて経験の積み重ねです。経験する機会を失えば、現象や意味はわかっていても、感覚として共有することができなくなります。たとえば電子レンジやIHヒーターの普及で、「火が熱い」ことを知らない子どもたちが増えていると言われています。

一方、「海水がしょっぱいこと」「塩が海水からできていること」を知らない子どもたちが増えているそうです。

「生活文化」と言えば衣・食・住、火も塩も、そのなかに含まれています。一方、火の起し方や、塩の作り方は、何度かの変遷を経ているので、火や塩に関する知識は、今を生きる上での「生活文化」であると同時に、昔の人々たちの経験した「歴史文化」を構成するものでもあります。ガスコンロと七輪には、火を起し「モノを煮る」という生活文化としての共通性と、コンロと七輪という「歴史文化」としての違いが表現されているのです。ここから歴史系博物館には、歴史文化を〈体験〉させるという重要な課題が生まれます。

十二単の着付け体験

わたしたちの博物館にも、歴史文化の体験プログラムがあります。それは、鎧兜と十二単の着付け体験です。男子向けと女子向けにそれぞれ用意されたもので

すが、なかには男性が十二単にチャレンジすることも、女性が鎧兜を着付ける場合もあり、希望者の思いのまま。一日に3回、予約なしで、当日参加者に限り、しかも複数の希望者があれば抽選—という結構、ハードルの高い催しなのですが、この人気が高く、北海道や東京、あるいは海外から、(展示を見るためでなく)そのためにだけ来る人がいます。平成28年度には十二単が374人、鎧兜が168人、あわせて542人が楽しまれました。十二単の人気のほどが偲ばれます。【写真11→裏表紙】。

毎年、これだけの人々が着付け体験するので、実は、絹地に痛みが生じており、修復が緊急の課題。しかし修復中には十二単の着付け体験は開催できません。そこでもう一組、十二単を備え、交互に使用するという案があるのですが、本物志向の十二単は、価格が半端ではないのです。そこでいま、ふるさと納税制度を使って修復金を募っています(ふるさとひょうご寄付金県立美術館・博物館等応援プロジェクト)。

みんなの家

この着付け体験は、「みんなの家」で実施されています。この家のポイントは、和風で畳敷であること。姫路に近い福崎町生まれの民俗学者柳田國男(1875～1962)の生家を模して作られた民家の一部には、座敷や居間・縁側も設えられ、大人も子どもも、昔の玩具で遊ぶことができます。

レゴやポケモンゴーなどのいまの玩具と比べれば、ここにある缶けりやコマなどは、単純で質素なものです。昔の民家とピッタリ、調和しているのです。写真の少女は、大学時代の教え子で釜山に住む韓国人の娘さんですが、異国であるにもかかわらず、すっかりと馴染んでいます【写真12】。

玩具で言えば、当館から車で30分



の所に日本玩具博物館があります。播磨の郷土玩具から日本と世界の郷土玩具を網羅した、それはそれは素晴らしい博物館ですが、もはや紙面が尽きたので、その紹介は、またの機会にしましょう。





⑧

▲現存する全国12城の天守閣を1/50縮尺模型で比較できる。



⑩

◀祭り展示コーナーの中心を占める屋台。



⑫

▲人気の高い十二単の着付け体験。

兵庫県立歴史博物館

兵庫県姫路市本町68番地 TEL079-288-9011

開館時間: 10時～17時

休館日: 毎週月曜日

有料ゾーン: 一般200円／高校生以下 無料

詳細は、ホームページなどでご確認ください。

<https://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/>

生活科・総合通信 そよかぜ通信 【2018年 春号】2018年3月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局
印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋
発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (内容について)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp> 03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F
		TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F
		TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F
		TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F
		TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
		TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2
		あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
		TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F
		TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室
		TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
		TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配付を許可されているものです。